内侍殿一勇うたいをんで谷地の御く政をうける

織田信長石見、奥州の諸侍を旧蹟に進上之事

城石千郎義之石見、奥州の諸侍尾州織田信長
をく内奮迫上あるしるを寄あるに去る天正七年七月十
八日出羽くにの大宮寺より駿馬を数匹延
逸奮十一疋白の奮一疋のぼせ延上をを大宮寺へ
黄金二百枚紙子廿領虎の皮五枚、使者に張子三
疋、ちんけり又奥州遠野保次郎石奮一疋延之

出羽の伯耆前田義家寺をたてて延奮三疋持ち
御礼申しけり 這間の年八幡久左衛門郎司餐延
しのぶけさご銭寺為見物ひられ色々の引出物ひれ
法延しあるけり 其考ひるに其況大宮寺に悪面飛
義氏世代の年出羽守長盛を大梵寺殿と号を之
の号長盛八今の宮寺の城に住る故大梵寺出
ねもと号す大梵寺を所の名をて大寺寺と唱
ふ又大宮寺と書まれり